

社会学部部報

- ◇昭和45年3月31日 栃原知雄教授園田学園大学教授に就任のため退職（定年扱い）、杉本照子助教授一身上の都合により退職、国歳真臣助手鳥取大学教養部講師に就任のため退職、熊谷一綱宗教主事宗教センター主事に就任のため転出。
- ◇4月1日 岡村重夫教授（社会福祉学）、船本弘教宗教主事、村川満講師（英語）就任。J. ジョイス講師、宮田満雄講師 助教授に昇任。
- ◇4月15日 始業式において田中国夫教授「情報を創造にかえる論理と技術」を講演。
- ◇4月22日 3月末で退職された栃原知雄教授の「文学と自然」と題する退職記念講演が行なわれた。
- ◇4月25日 学部研究会総会 昭和44年度決算報告、昭和45年度役員選出が行なわれた。
- ◇5月27日 学部研究会 発表者 米国ブラウン大学教授 R. M. マーシュ氏「比較社会学の動向」
- ◇6月14日 J. ジョイス助 教授は1ヶ年間の休暇を得て米国へ帰国。
- ◇6月15日 E. R. シャイマー教授は本日附で退職、米国へ帰国。
- ◇6月24日 学部研究会臨時総会 会計監査委員選出、研究会の運営、紀要の改善など協議が行なわれた。
- ◇7月13日 カナダより元社会学部教授L. B. グレアム氏が来日、本学部を訪問。
- ◇8月24日 杉山貞夫助教授は、米国ピッツバーグ大学へ留学（昭和46年12月末まで）のため出発。
- ◇9月14日 萬成博教授を研究代表者とする文部省科学研究費特定研究（I）『産業構造の変革にともなう労働問題』に210万円の補助金交付決定通知があった。
- ◇9月30日 学部研究会 発表者清水盛光教授「社会学における共同と共通という言葉の用法について」、半田一吉助教授「言語における規範と慣用」
- ◇10月1日 本出祐之教授（社会福祉学担当）就任。
- ◇11月3日 元社会学部教授竹内愛二氏に勲三等瑞宝章の叙勲があった。

会員の新著

- 領家穰教授 「未解放部落の実態（I）府中市」部落問題研究所、昭和44年5月。
- 佐々木薫助教授 D. カートライト、A. ザンダー著『グループ・ダイナミックスI』（第2版）を三隅二不二と共訳、誠信書房、昭和44年9月。
- 田中国夫教授 奥村昭和、松山安雄と共著『兵庫県生活指標報告書』兵庫県企画部、昭和45年3月。
- 津金沢聡広講師 重松俊明編著『変動期の社会と教育』のうち「戦後日本のミ大衆芸術・娯楽の研究」を執

筆、黎明書房、昭和45年4月。

岡村重夫教授 『地域福祉研究』柴田書店、昭和45年4月。（編訳書）国際連合著『世界の社会福祉教育』岩崎学術出版社、昭和45年8月。

倉田和四生助教授、丹羽俊喜助教授ほか3名共著『都会開発と市民生活』東洋経済新報社、昭和45年6月。丹羽春喜助教授『社会主義のジレンマ』——ゆきづまる計画経済——日本経済新聞社、昭和45年10月。山中良知教授 『宗教と社会倫理』創文社、昭和45年10月。

春名純人講師 H. ドーイウェールト著『西洋思想のたそがれ—キリスト教哲学の根本問題』（訳）、法律文化社、昭和45年1月、関西学院大学社会学部研究叢書第1篇。

倉田和四生助教授 『都市化の社会学』法律文化社、昭和45年6月、関西学院大学社会学部研究叢書第2篇。上記著書のうち、関西学院大学社会学部研究叢書第1篇『西洋思想のたそがれ』は割引きでおわけしますから、ご希望の方は社会学部事務室までお申出下さい。

学会消息

◇日本教育心理学会

昭和44年10月9日より11日まで広島大学（会場広島女子大学）で行なわれた第11回総会に田中国夫教授が出席、次のテーマで発表を行なった。

『態度構造と変容の理論——適合性理論と総和理論の数学モデルの比較検討——』

昭和45年10月1日より3日まで3日間、京都教育大学において第12回総会が開催された。本学部よりの参加は次の通りであった（いずれも研究発表）。

田中国夫教授 兵庫県生活指標の研究（2）——因子分析的アプローチの問題点——（大阪教育大学松山安雄と共同研究）

佐々木薫助教授 学生集団のグループ・ダイナミックス的研究（1）——吹奏楽部の集団特性と生産性との関係について——

なお、今次総会において行なわれたシンポジウムは次の通り。

- I. 学習における認知的動機づけ
- II. 精神薄弱児の発達を促進するための指導をめぐって
- III. 学校教育における性差の問題
- IV. コンピューター利用の教育システムの功罪

◇日本精神神経学会

4月21日より23日まで、第67回大会が徳島市文化センターにおいて開催された。第1日は公開評議会、第2日は総会、第3日はシンポジウム「わが国の精神医療の現状と問題点」であった。本学部からは杉原方教授が参加

した。

◇関西社会学会

5月23日より24日まで、第21回大会が愛知県立大学において開催された。第1日は個人研究発表とシンポジウム「都市化と都市問題」、第2日は午前中個人研究発表がもたれた。本学部から多数参加したが、万成博教授が「終身雇用制の構造・機能分析」(ブラウン大学 R. M. Marsh との共同研究)、稲継尚助手が「階級について—ダーレンドルフ批判を中心に—」のテーマでそれぞれ研究発表を行なった。なお、シンポジウムの司会者として大道安次郎教授が参加した。

◇日本新聞学会

日本新聞学会1970年度総会並びに春季研究発表会は、6月5、6両日仙台市の東北学院大学に於て開催された。個人研究発表の他、シンポジウムでは「情報化社会におけるマス・メディア」がテーマ。マス・メディアの技術的発達についての報告をめぐって、現代における「情報化」の実態をどう把握すべきかが討議の中心となった。本学部からは、藤原恵教授、津金沢聡広講師が出席した。(なお『新聞学評論』第19号(1970年5月刊)を参照されたい)

◇家族社会学セミナー

8月23日より25日まで第3回大会が大津市において開催された。テーマは「家族の国際比較のために」。本学部からは光吉利之助教授が参加し、サブ・テーマ「親族関係」について報告した。

◇日本心理学会

8月28日より30日まで3日間、仙台市の東北工業大学(ただし当番校は東北大学)で第34回大会が開催された。本学部からは田中国夫教授および佐々木薫助教授がシンポジウムおよび研究発表に参加した。両名の参加プログラムは次の通り。

田中国夫教授〔シンポジウムⅤ〕現代における青少年の問題行動

〔研究発表〕社会的態度の構造に関する比較文化的研究——日米大学生の場合——

佐々木薫助教授

〔研究発表〕集団のサイズが規範の形成に及ぼす効果の実験的研究

なお、今大回で行なわれたシンポジウムは上記のほかⅠ. 言葉と心、Ⅱ. 臨床の問題に適用された理論と技法、Ⅲ. 組織における意志決定過程、Ⅳ. 日本心理学界の回顧と展望—国際心理学会議を2年後に控えて—、をテーマにした。

◇三学会合同大会

日本犯罪心理学会(第8回大会)、日本社会心理学会(第11回大会)および日本グループ・ダイナミックス学

会(第18回大会)は、三学会合同大会を去る10月16日より18日までの3日間、九州大学教育学部において開催した。本学部からの参加は田中国夫教授、佐々木薫助教授と大学院生(修1)山口真人君であった。参加のプログラムは次の通り。

田中国夫教授 パネル・ディスカッション『反体制行動の心理とは』(パネラーとして)〔三学会合同〕

研究発表:「ムラ」びとの態度と計画的変革(3)——ゲス・フウ・テストによるリーダー分析——(神戸新聞社奥村昭和と共同発表)〔社会心理〕

「ムラ」びとの態度と計画的変革(4)——村八分事件よりみたリーダー——(神戸新聞社奥村昭和と共同発表)〔社会心理〕

佐々木薫助教授 研究発表:規範の結晶度が集団の凝集性に及ぼす効果の実験的研究〔グループ・ダイナミックス〕

社会的勢力の汎化に関する実験的研究〔社会心理〕
PMリーダーシップ・タイプが生産規範に及ぼす効果に関する実験的研究(山口真人君と共同発表)〔グループ・ダイナミックス〕

地域青少年の団体活動に関する研究(1)——参加の規定要因について——(神戸新聞社奥村昭和、加古川市教委清川登市、高井和博と共同発表)〔グループ・ダイナミックス〕

地域青少年の団体活動に関する研究(2)——参加の効果について——(神戸新聞社奥村昭和氏、加古川市教委清川登市、高井和博と共同発表)〔グループ・ダイナミックス〕

山口真人君(修1) 研究発表:PMリーダーシップ・タイプが生産規範に及ぼす効果に関する実験的研究(佐々木薫助教授と共同発表)〔グループ・ダイナミックス〕

なお、本大会におけるシンポジウムその他の記念行事は次の通りであった。

合同シンポジウム:「社会的行動の正常と異常:その認知論・構造論・動機論」

パネル・ディスカッション:「反体制行動の心理とは」
記念講演:「情報学の論理と行動科学」(九大理学部北川敏男教授)